

第33回

さまざまな北方の 民族が交差した いにしえの網走

夏、車窓から大きな網走湖を眺めながら、網走に取材に訪れた。網走湖を調べると縄文時代に起き始めた縄文海進でここまで海水が来ていたとある。

すぐそばにある標高207メートルの天都山は、網走で一番高い山であり、その山頂には道立北方民族博物館がある。中に入ると、北極を中心にした大きな地図があって、しばし眺めてしまう。この見方で北海道の位置から世界を見てみると、一般の日本地図とは全く違うものが見えてくる。古代から千島列島やサハリンそして大陸と、さまざまな人や物など文化の往来があったことが一目でわかるのだ。館内に展示されている生活用品や衣服などの素材やデザインに、いろんな文化が影響しあった片鱗^{へんりん}があり、非常に興味深く見入ってしまった。いにしえのその往来を想像すると、生きることへの人間の逞しさ^{たくま}を感じて胸が躍る。

そんな天都山の一角の小さな山にアウトドアの「カフェ体験」を楽しめる場所がひっそりとある。営んでいるのは山を入手し、森の中で牛を飼い、この地に誘われるように移住したご夫婦^{たき ぎ}。薪火で沸かしたお湯でコーヒーを淹れ^い、牛のミルクのクッキーを焼き、既成の枠にはまらない自然体で穏やかな生き方をしている。

オープンエアーのデッキの上でコーヒーとお菓子をいただきながら、古代からさまざまな文化が行き交う場所であったこの土地は、もしかしたら昔も今も、自分らしい豊かな感性と文化で生きていける、魅力溢れる場所なのかもしれない。とふと思うのである。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつはたけのごちそうなーんだ?」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ?くだもの」(アリス館)がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。



新潟市立郷土博物館分館



モヨロ貝塚館

古代「オホーツク文化のムラカ」
あったモヨロ貝塚。

この貝塚から発掘された
さまざまな資料も展示！
当時の暮らしを体感
できる場所です。



オホーツク
流水館

オホーツク海の
ふしぎな生き物に
会えます！

展望台もあります！

網走には
古仕の矢人の足跡
や豊かな自然が
たくさんあるよ！



オホーツク湖の水鳥・
湿地センター

この湖は2005年に
ラムサール条約の湿地
として登録。様々な
野鳥や植物が
保全されています。